



NO.1256

2月23日号

発行所

日本共産党
網走市委員会
網走市北八西三
五四三、四四八
F 四三、四四七



安倍政権の 国民いじめの政治から 市民生活を 守る予算に

第1回定例会が3月3日から始まりです。今、国会では安倍自公政権のもと、国民のくらしを無視した2020年予算が審議されています。

日本共産党網走市議団は、くらし・福祉、医療や介護を脅かす予算に対して、厳しい財政運営の中、網走市民の生活を守るために新年度ではどう対応するのか、以下の点で代表質問します。

- 消費増税で深刻化する国民のくらしや経済への対策はどうするのか。
- 332億円の債務残高があり、依然と厳しい財政運営の中で市長の給与削減をやめたことや財政再建をどう進めるのか。
- 大雨などへの早急な防災対策を。防災を重視した新庁舎建設を。
- 消費税の影響が大きい中小企業対策を進めよ。
- 全世代型社会保障制度で削減される高齢者医療、介護、年金政策に対して市はどう対応するのか。
- 地球温暖化対策は待ったなしの状況、具体的な対策を。
- TPPや日米FTAの影響を考慮した農業政策を。
- 学校給食の一部民間委託は市民論議が少ない。委託による影響を検証し、市民が納得のいくよう検討すべき。

新日本婦人の会、対市交渉 給食民間委託はやめて

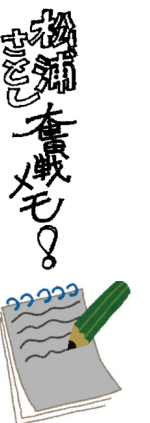
「新日本婦人の会」網走支部では、2月12日～14日に支部創設以来続けている『対市交渉』を行いました。市民や女性の要望を50項目にまとめ、述べ19人の会員で市の担当部長と交渉しました。

緊急告知防災ラジオの見通しについて・錦町会館を投票所にして高齢者に配慮した投票所を検討すべきでは・5歳児検診の対応職員について・プラスチックごみの処分について・高齢者の足の確保について・学校でのいじめの把握について・学校給食の民間委託について・ジェンダー平等のとりくみについて・市民プールの床の改善などを要望しました。

給食調理に関わった参加者からは「給食調理は民間委託すると働く人達は更に忙しくなり、



ていねいな作業ができなくなる。安心安全は言葉だけだ。中止してほしい」「学校側はいじめを把握できてほしい」と訴えました。



第1回定例会（予算議会）が、3月3日～23日まで開かれます。

この年間は、一人議員だったので代表質問ができないでしたが、昨年の市議選で2名になり日本共産党議員団を結成したことで、3月議会で代表質問ができることになりました。

今回の代表質問は、村椿議員が行いますが、質問原稿は2人で手分けをして懸命にパソコンに向かって原稿を作っている最中（19日現在）です。もう少しで出来上がる予定ですが、かなり膨大になっています。これから二人の原稿を合体させて原稿を削除したり加えたりする作業があります。今週は議会日程も連日のように入っているの、なかなか作業に集中できなくて困っています。そんなことから連日、夜の9時過ぎまで頑張っているところですが、何とか仕上げたいと思っています。

この苦勞も2議席にしていたからこま味わえるのだと思つて、励みにして奮闘したいと思います。



先日、市民の方から市長の給料が月19万円上がったことに対して、

怒りの電話があった。「夫は朝7時半に出て夜9時過ぎまで仕事しても手取りは月20万円程度、市民の実情を知らない。財政は厳しいのに市長は黙って上げた。財政再建が先だ。市長給与について話す場を作ってほしい。」市長給与の減額は1999（H11）年7月から始まり、30年11月まで続いた。網走市はこの間、現業職員の退職者不補充などで市職員を100人以上も減らし続け、廃棄物処理や除雪などを民間委託、指定管理者制度を進めて借金を減らしてきた。しかし、財政が厳しいのは変わらない。H26年の市長選挙後に、市は議会に給与減額の条例を出している。しかし、H30年は出さなかった。市長は毎年、厳しい財政だと話しているのにだ。

そして、今度は給食調理の民間委託の計画だ。現業職員の退職者不補充を進めてきた市の行革は、必死に働く給食調理員を苦しめている。何としても民間委託は中止させたい。

流氷

新型コロナウイルスによる肺炎が流行しています。心配なことです。風邪などに伴う熱や頭痛を和らげる薬「アスピリン」があります。この成分を含んでいた植物はヤナギなのです。その歴史は相当古くギリシャ時代から知られていました。紀元前400年ごろ、ヒポクラテスは、ヤナギの樹皮を熱や痛みを軽減するため用いていました。また、葉を分挽時の痛みを和らげるために用いたという記録があります。19世紀にはヤナギからサリチル酸が分離され、解熱鎮痛薬として多用されましたが、胃腸障害を引き起こすという副作用がありました。

こうした中、1897年（今から120年前）ドイツのバイエル社のホフマンがサリチル酸をアセチル化したアセチルサリチル酸の合成に成功しました。しかもヤナギからではなく科学的にサリチル酸を合成するようになりました。ここでバイエル社は、1899年に商標登録し「アスピリン」として発売し、今日に至っても使いつがれている薬です。この薬は、非ステロイド性抗炎症薬の代名詞的な医薬品です。日本では、歯痛予防にヤナギの鎮痛作用を利用した楊枝が使われまし

博物館友の会会員 小森

